

# ナマステ

特定非営利活動法人  
自然文化誌研究会 会報誌



## 128 号

2017 年 5 月 30 日発行号

### 40 年を超えても日々活動を続けてます！！

## ■ 活動報告 ■

### その1 冒険学校「むらまつりキャンプ」報告 5.3~6

小菅村の「第 30 回多摩源流まつり」に合わせて開催、今年は連休の日付もよく 3 泊 4 日での開催となりました！！



キャンプの始まりはコッヘル（食器）選びから。この時期は川遊びも控えめにまったりすることが多いです～。



男女問わず、薪割を行い、山菜シーズンですから採取と調理、夜は焚き火でマシュマロを焼いたり～、高校生スタッフも大活躍！



加藤翔くん、杉田甲斐くんも舞う小永田地区の神楽（浅間様）を訪れ、タイのチナタツタ先生のタイ料理などなど、いろいろありました！！



参加者の皆様には、写真の CD-R を同封しましたぞ！！

## その2 のびと講座「野草の天ぷらとお茶つみの会」報告 4.29

毎年、東京学芸大学環境教育研究センター彩色園（旧農場）で開催しています。野草採集の講師には樹木医の岩谷美苗さん、お茶摘み～製茶の講師には宮本透さんが指導してくださいました。当日は午後から雨もありましたが目的どおりに野草の天ぷらと、お茶を摘んで製茶し飲むことができました。



お茶の収穫。手で摘んでいきます。製茶作業は蒸してからホイロで揉みます。講師は卒業生の宮本透さんです。



岩谷美苗さんによる野草講座、天ぷらは町田兄弟を中心に参加者の皆様と協力して揚げました。

来年度も、4月29日の祝日に開催予定です。お楽しみに～！！

## その3 「伝統知シンポジウム」報告 4/15-16 神奈川県藤野町

国土緑化推進機構の助成を受けて調査・研究・プログラムの開発と普及活動を行ってきました。テーマは「伝統知」ということで、小菅村で普段からお世話になっている地元民＝伝統知の実践者に教えを受け、技術を学び、記録を取りながら続けてきました。「伝統知」を持つ人々が老いて亡くなっていくことで、どんどん技術や文化が失われていき、継承することは喫緊の課題です。



エコプラスの高野孝子さんによる報告に始まり、地元の藤野の方々を演者に「伝統知」の大切さと実践活動を紹介していただきました。翌日は、「藤野サステイナブルスポットツアー」ということで、実践活動が行われている場所をご案内していただきました。

これまでの成果をまとめたものを、この夏に報告書として発行する予定です。

# 「タイ環境学習キャンプ」特集～はじまってから20年⑦

## タイの連載⑦

中込 卓男

5月のゴールデンウィークに、タイでいつも私たちをお世話してくれるチナタッタさんが来日した。ラジャバト・プラナコーン大学の教授である。去年秋来日したラダワン先生やシリワット先生とよく一緒に活動している。最近では2015年3月に来日し、忍野八海へ黒澤さんが、鎌倉に木俣さんが案内した。

今回ゴールデンウィーク中なので観光地を避け、小菅村や藤野の友人たちとその活動を見ていただいた。5月5日、朝7:00すぎにゴミさんが羽田に迎えに行き、私(ゴメ)と合流、私の車で小菅村へ、まず松姫峠へ行っただ。富士山を見るのが目的である。何とか見えた。その後小永田の浅間神社でのお祭りを見学、加藤翔くんの舞を見た。



▲松姫峠で。▼小永田浅間神社祭 翔君と。



小菅の蕎麦屋を訪ねたがどこも人でいっぱい、結局「むらまつりキャンプ」を行っている善さんのキャンプ場でお昼ご飯をいただいた。



▲いつものキャンプ場で。オーナーの木下善晴さんと。

ゴミ、ゴメ、チナタッタさんの3人で小菅の湯が混んでいるので車で20分の丹波山村の温泉に行った。駐車場に入るまで少々列に並んだが、温泉は大丈夫であった。のんびりと湯につかった。タイでは温泉はあっても、バンガローのような個室が立ち並びプライベートな場所です。あるいは水着ではいる。昨年来日したタイ人を小菅の湯に連れてったが、アドヴェンチャーと言って、男湯でも2人のタイ人はこれだけは勘弁してくれと言って、腰に大きな布を巻いていた。湯船には布は持ち込まないという条件で。チナタッタさんは特別である。僕ら日本人と同じである。

夜は黒澤亭で、歓迎会。「とりあえずビール」から始まって、焼酎、ワイン、日本酒、ウイスキー、梅酒・・・こういう飲みかたは日本流とチナタッタさんは笑いながら言っていた。タイではビールならビールで最初から終わりまで通す。ウイスキーならウイスキーであるとのこと。昔はビールは高かったのでもっぱらウイスキーを飲んだと言っていた。今回タイで有名なウイスキー「メコン」を持ってきてくれた。皆で頂いた。米から作るウイスキーである。メコンというのは大きな川の名である。ログビルダーの若狭さんも参加してくれ、楽しい会となった。チナタッタさんは、梅酒が気に入ったようで、作り方を覚えていた。問題はタイで新鮮な梅が手にはいるかどうかだ。



▲写真右の黒澤さんが啜っているのが「メコン」翌朝はキャンプ場で朝食。チナタッタさんがタイ風卵焼きを作ってくれた。醤油を使っているのにタイの味なのは不思議、キャンプ参加者に大好評であった。



午前中、永作、西原と抜け藤野を目指す。2008年に一緒にタイに行った木下純子さん宅を訪問。

次に宮本透さんの茶畑を見学。ナマステ127号(2017年3月10日発行)『藤農便り』8号(宮本透)にこの茶畑との関わりが詳しく書かれている。



▲左から純子さん、宮本さん

午後は立川市にある「たちかわ創造舎」で、私の娘が主宰する演劇集団「鮭スペアレ」がシェイクスピアの喜劇「夏の夜の夢」を題材に中高生と一緒に音楽劇を創るワークショップを行い、その成果発表会を見に行った。暑い日であった。



▲たちかわ創造舎屋上での演劇「夏の世の夢」私的なことだが6月24日(土)に小菅村で「小菅村えんげきの日」と称し、たちかわ創造舎の3団体が演じる。鮭スペアレは音楽劇『ハムレット』を上演する。

この暑さではバンコクと変わらないと、避暑に来たのにと、チナタッタさんはつぶやいた。

夕方、東京での歓迎会である。私達ゴミ、ゴミに加え2年前と同じく中川さんも来てくれた。とりあえずビールから始まり日本酒、チューハイ、ハイボール・・・ここでもチナタッタさんは梅酒を飲んでいて、よほど気に入ったらしい。バンコクにこの8月にも行くことになっている。今年は無理だが近いうちに中川さんも我々のタイツアーに参加してくれそうである。中川さんが来れば、バンライでの音楽仲間との宴もより楽しくなること間違いなしである。INCHまつりでもおなじみのキーボードの名手である。



▲立川市の居酒屋で。

5月7日(日)はのんびりと我が家へ来ていただいた。そこで恒例となったタイ料理を作っていた。タイにはごぼうがないということで、ゴミさんがごぼう料理を一品作った。



夜は木俣さんもおいでくださり、4人で東京最後の夜の宴会となった。



今年も8月11日(金)～20日(日)に「タイ環境学習キャンプ」が行われる。今回もチナタッタさんにいろいろお世話になる。

まず、素敵なノイジープレイスに連れて行ってくれる。最近飲酒運転の取り締まりが厳しくなり、タクシーで行くことになっている。場所はゴミさんがリクエストしたなかなか大音響の場所である。



▲トムヤムクン、グリーンカレー、ラープ風味の挽肉、母が作った花豆の煮もの、山芋の煮もの、女房が作った鶏肉のから揚げも並んだ。

昼食後は南大沢のアウトレットモールに行き、ショッピング。



▲昨年のノイジープレイス。3リットルの生

ビールのタワーがそびえる。舞台ではいろいろな歌手が楽しいショーを大音量で繰り広げる。

ワークショップも行う。2回。なかなか好評なのだが、準備が大変。今年はこちらにゃくいもの調理法もやる。タイではこんにゃくは茎を食べる。いもは食べないのである。

バンコクからはなれ、バンライのパンダキャンプにも行く。地元でバンド活動をしている古くからの友人たちがいて、今回も来てくれるだろう。楽しい宴が待っている。参加者は日本の歌を披露する。今年「北酒場」も歌う予定。タイで人気がある歌の一つとのこと。



今年も8月19日(土)にバンコクで日本人のフォーク歌手、豊田勇造のライブがある。昨年初

めて行って、とても楽しかった。今年もいけたらいいな。



▲チナタッタさんが案内してくれた。



▲左はカラワンのモンコンさん。右が豊田勇造さん

## 『藤農便り』 第9号

宮本茶園 tetote farm

宮本 透

春の彼岸過ぎから畑仕事が忙しくなってきました。内郷から佐野川の畑を回って作業をしていると、体はクタクタです。閉店間際のスーパーで半額になった惣菜を買い、帰宅して夕飯を食べるとウトウトします。夜9時過ぎには爆睡、朝5時に起床して朝風呂に入り、てくてくのパンを食べながら趣味のYouTube鑑賞、それから畑に向かいます。お薦めの春アニメは、東京での就職活動に苦戦する女子短大生が野間山という田舎町の観光大使になり町おこしに奮闘する「サクラクエスト」と川越の中学3年生男女の甘酸っぱい初恋を描いた「月がきれい」です。畑仕事で汗を流しアニメをみて疲れた体と心を癒す毎日、もうこの世界から抜け出せません。

### ・児童クラブ勤務

相模原市より「非常勤職員に任用する」という辞令をいただき、3月中旬より児童クラブ勤務が始まりました。昨年11月から現金収入の無い生活でしたので、4月に振り込まれた給料は本当にありがたかったです。職種は「児童育成補助員」、保護者が昼間家庭にいない小学1～3年生の子どもたちの放課後の見守りや生活指導が主な仕事です。作業着をジャージに着替えて出勤、子どもたちと部屋でゲームをし、校庭でサッカーやドッジボールをして遊びます。

オセロ・将棋・囲碁などは久しくやっていなかったもので、子どもたちとの対戦は真剣勝負で熱くなってしまいます。人生ゲームや野球盤など私が子どもの頃にあったアナログゲームも健在なのは驚きました。

評価で管理されない子どもたちは元気いっぱい、新鮮な刺激をたくさんもらっています。彼らが児童クラブで楽しい時間を過ごすことができるよう、穏やかな気持ちで見守りたいと思います。

### ・野草の天ぷらとお茶摘みの会

4月29日に開催された学大環境教育研究センターでのデイキャンプ、初めて茶農家の肩書きで講師を努めさせていただきました。例年以上の参加者で盛況でしたが、今年は春先に低温が続き葉の生育が例年より10日ほど遅れたため、摘み取った葉は約2kgでした。セイロで蒸し、汗を拭きながら焙炉で揉むこと3時間、出来上がった新茶をみんなで試飲し、お土産用の小袋を渡して無事終了です。

ところでINCH 伝統行事のお茶摘みの会ですが、最初は味噌作りの会でした。私がまだ学生だった1985年春、農場で日野市の市民耕作グループ「やほ耕作団」と自然文化誌研究会冒険探検部合同で行ったのがはじまりです。朝から大釜で大豆を煮ながらみんなで飲んで歌って踊ると、陽気に騒いで一日がかりで数十kgの味噌を仕込んだものです。小川君が事務局長の頃から茶摘みになったようですが、30年以上続く行事です。プロの茶農家としてこれからもずっとかかわりたいと思います。今年はまだ手揉み茶講習会に参加して、技術の向上に励みます。年末には孫が産まれるので、数年後には一緒にお茶作りができそうです。老後の楽しみが増えました。

夕方からは国分寺で運営委員会、会議終了後は若いスタッフと合流して楽しい飲み会になりました。にぎやかな若者たちを横目に、委員のおじさんたちは隅っこで酒盛りです。黒澤君との会話、「久しぶりに冒険探検部に1年生が入ったので、飲みにつれてきます」、「僕も誘ってよ」、「先輩が来たら1年生が怖がって逃げちゃうじゃないですか！私に任せてください」。私は学生時代佐藤さんたち先輩の方々から受けた御恩を後輩たちに返したかったのに、少し心が傷付きました。木俣師との会話、「農家になって4ヶ月、今のところ就農計画通りで順調です」、「それはよかったですね」、「お茶と雑穀栽培で頭がいっぱいで、他の事は何もできません」、「宮本ちゃんはずっとコッチ側の人なのだから、極めたらいいじゃないですか」。ありがたいお言葉をいただき、コッチの世界にこもって一層やる気がわいてきました。

### ・茶収穫

4月25日農協藤野茶業部総会・部会に出席、宮本茶園初めての収穫は不安だらけでしたが、先輩方から今年度の収穫・加工計画について親切に教えていただき、じっくり準備をすることができました。5月9日に茶園巡回があり、県農業技術センターの木村普及員の指導のもと各部員の摘採時期を確認しました。先輩農家の茶畑を見学することができ、とても勉強になりました。私の茶畑収穫日は、葉の生育のよいところが16日、芽が小さいところが22日となりました。

収穫作業は摘採・運搬・選別等様々な工程があり、とても1人ではできません。部長の小池さんやつくいやさいの石山さんに相談し、知人をお願いして働いてくださる人を探しました。ありがたいことに佐野川の先輩農家やつくいやさいや飯)竹パウダープロジェクトの仲間が快く引き受けてくださいました。

茶の葉は摘み取ると発酵が始まり、時間が経つほど品質が下がります。小池部長からは「農協が午後集荷するが、人手があるなら100kg収穫したらすぐに工場に運んだほうがよい」とアドバイスをいただきました。吉田島農林高校の茶摘み実習、「収穫から3時間以内に葉を蒸すのが望ましい」と県農協茶業センターで教わったことを思い出しました。木村普及員と私が摘採機を操作しヘルパーが摘み袋を持って収穫、葉が詰まってサンタクロースのように重い袋を作業場に運んで葉を広げ、総出で古葉や堅い枝を取り除きます。仲間のていねいな作業のおかげで、串川の製茶工場では「今年は良い葉を持ってきたじゃないか」と工場長からほめてもらいました。さらに嬉しいことに足柄茶品評会に出品させていただくことになりました。仲間の力で生まれたつくいやさいの無農薬・無化学肥料・無除草剤のお茶、荒茶を製品加工したら消費者の皆様にお届けしたいと思います。



摘採作業



選別作業

### ・雑穀を未来へつなぐ ミレット藤野・自給農耕ゼミ

ミレット藤野はメンバーが5人になり、篠原シンポジウムの準備と併せて雑穀栽培講座の企画に取り組みました。6回の講座の農作業指導を中川智さんをお願いするため、4月3日木下さん・末村さんと3人で西原を訪ねました。中川さんには初めてお会いしましたが、水車や石臼の扱い方、山の中でツルを使った荷物の運び方、畑の作物の支柱の立て方等、春の1日目いっぱい伝統知を教えてくださいました。快く講師を引き受けてくださり、小菅・西原・藤野と雑穀街道の絆を改めて感じ取ることができました。

中川さんから今年栽培する雑穀の種をいただき、藤野駅前の畑も準備万端です。ミレット藤野では圃場担当になったので、収穫まで責任をもって管理して12月の試食会をむかえたいと思います。

以下講座の内容です。

第1回 5月28日(日)午前10時～

農作業：種蒔き 講座：「日本古来からの長寿食遺産を継承する」木俣美樹男

第2回 6月11日(日)午前10時～

農作業：間引き・定植 講座：「雑穀と雑草 食べられる植物の見分け方」池竹則夫

第3回 7月9日(日)午前10時～

農作業：土寄せ等 講座：「在来種を受け継ぎ、未来へつなげる」増田昭子

第4回 9月19日(日)・10月15日(日)午前10時～

農作業：収穫 講座：「消費者から生産者へ自給的生活のすすめ」加藤大吾

第5回 11月19日(日)午前10時～

農作業：脱穀・調整 講座：「日本の伝統食と健康」

第6回 12月3日(日)午前10時～

雑穀料理教室・試食会 調理：藤野料理教室にじ 越野美樹

参加を希望される方は、メール：[milletfujino@gmail.com](mailto:milletfujino@gmail.com) ファクス：042-687-5639 にお申込ください。



中川さんの伝統知指導



開講を待つ藤野駅前畑

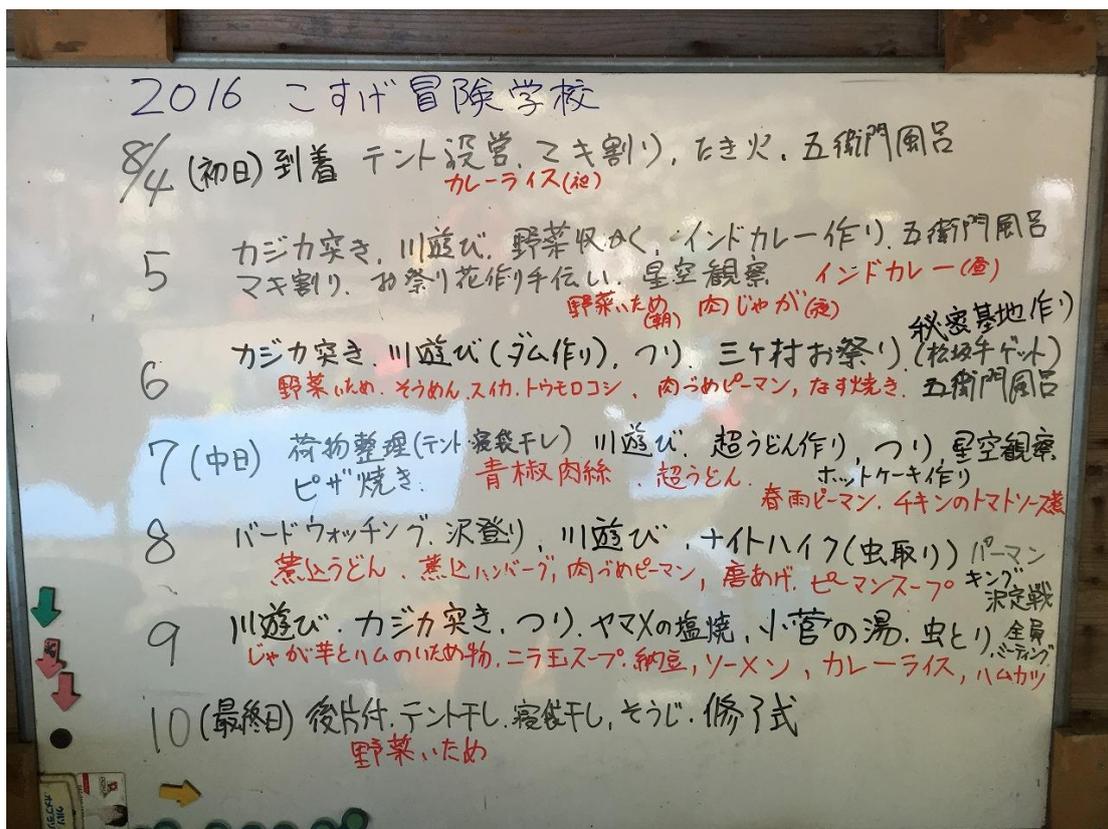
■ 活動案内 ■

**その1 冒険学校「こすげ冒険学校」**

**8.2~8.8(6泊7日)**

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす 6 泊 7 日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、魚を捕ったり、思う存分に遊び続けよう！！寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう！！一緒に山の中や村の暮らしを探検する 7 日間です！

日程：8 月 2 日（水）～8 月 8 日（火）6 泊 7 日  
 場所：小菅村のいつものキャンプ場  
 宿泊：テント・ログハウス・野宿などで寝袋  
 対象：小学校 3 年生～中学校 3 年生 20 名  
 参加費：会員：¥28,000 非会員：¥30,000  
 申込み：7 月 7 日（金）まで、先着順です。



今年はどうなプログラムになるか、楽しみですね！？

**その2 「タイ環境学習キャンプ」**

**8.12~8.21(9泊10日)**

今回も首都バンコクから車で数時間、ウタイタニー県バンライ郊外の「パンダキャンプ」を拠点に活動を展開します。毎年訪れているファイカケン野生動物保護区は世界遺産であり、観光客はもとより、地元の方でも許可がなければ入れません。貴重な動物を見て、密猟者から保護区を守るレンジャーからの話あります。

少数民族のカレン族の集落訪問、伝統工芸品の製作など体験内容を充実させています。恒例の現地教員とのワークショップも好評となっています。高層ビルの立ち並ぶバンコクと少数民族が暮らす亜熱帯の森に皆さんは何を感じるでしょうか？通訳、ガイドも同行し、

現地のラジャバト大学との連携もありますので安心してご参加くださいませ！！

日程：8/12(土)～21日(月)  
 対象：高校生～一般（中学生以下は要相談）  
 参加費：会員 155,000 円 非会員 165,000 円  
 ※航空券と現地での費用が含まれています。  
 申込み：6 月 3 日（金）締め切りですが、航空券の手配がありますので、まずは事務局までご連絡ください。また、パスポートを持っていない方は、急ぎ用意する必要があります。出発前に事前に参加者ミーティングも行いますのでご安心を！

## その3 冒険学校「やまめキャンプ」「いwanaキャンプ」 8.11~8.13

「小菅村をぜひ体験してみませんか？」1泊2日のキャンプをしながら、小菅村の自然と文化を感じるキャンプを行います。親子での参加が可能なキャンプです。大人の方もお子さまと一緒に、小菅村の自然や文化に触れてみませんか？ 一緒にキャンプをしながら、野外で食事をつくり、思いっきり遊びながらテントで休めます。「自然」という名の遊び場は最高ですよ。今年も「やまめキャンプ」「いwanaキャンプ」と連続して行います。連続で参加して2泊3日のキャンプにすることも可能ですよ〜！！

「やまめキャンプ」：8/11~12 1泊2日 「いwanaキャンプ」：8/12~13 1泊2日

※連続での2泊3日OKでゆっくり過ごすこともできます！

場 所：小菅村のいつものキャンプ場

宿 泊：テント・ログハウス・野宿など

対 象：小学校3年生以上は子どものみの参加可能。20名

申込み：7月7日（金）まで、先着順です。

参加費：1泊2日親子での参加：20,000円(会員)

※ 連続参加、子どものみの参加は割引きします。



お子さんと一緒に沢登り



白糸の滝ツボヘタイプ！！

参加の申込は事務局まで、E-mailかハガキで、氏名（ふりがな）、住所、電話番号、年齢（学年）をご記入の上、お気軽にお申込ください。お待ちしております〜♪

## その4 のびと講座「源流での登山道整備」 7.28~30(2泊3日)

甲武信ヶ岳は、山梨県・埼玉県・長野県の分水嶺となっており、荒川・千曲川・笛吹川の3つの河川の水源地です。ここから流れる水を飲み水、生活用水として利用しています。私たちの生活にかかわりの深い上流で、本当に美味しい源流の水を味わいながら、登山道での草刈り、整備を行い、一緒に汗をかきませんか？

甲武信小屋のご主人・山中徳治さんのお話を交えて、源流と流域のつながりを身をもって感じる講座です。

体力があまりないのでちょっと自信が・・・という方でも、自分のペースで活動できますよ。



やることはいっぱいあります。

日 程：7月28日（金）~30（日）2泊3日

場 所：甲武信ヶ岳と甲武信小屋の登山道

宿 泊：甲武信小屋（山小屋に泊まります！）

参加費：会員：¥15,000程（宿泊費・交通費・保険代など）

対 象：高校生~一般 15名（中学生以下は要相談）

申込み：7月7日（金）まで、先着順です。

# その5 「INCH 祭り」～「INCH ライブ 2017」と「のびと講座 きのこキャンプ」で楽しくやっちゃいましょう！！ 9.23～24(1泊か日帰り)

秋の一大イベント「INCH 祭り」を開催します！ログハウスのあるキャンプ場で、「INCH ライブ」と「のびと講座 きのこキャンプ」を開催し、秋の味覚を堪能しながら楽しい時を過ごしましょう！

を採りに行きましょう！！



← 野外でバーも開催！

ま、ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！ 音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方もぜひぜひお越しください♪

きのこに興味のある方は、一緒に山に入ってきのこ

- 日程 9月23日(土)～24日(日) 日帰りもOK
- 会場：山梨県小菅村いつものキャンプ場
- 交通機関

※小菅村までの交通は自力になりますので、よろしくお願ひします。バスの時間などをご相談ください。

■お申し込み：ライブの当日参加は OK ですが、きのこ採りに参加される方は保険に加入しますので、9月18日(月)までにお申し込みください。

## 『小菅村のログハウス』

昨年の11月から小菅村ログハウス第3弾(黒澤家を含めると第4弾)となるトイレ棟づくりを再開しました。トイレ棟の前に、第2弾のログハウスの1階作業スペースを壁板と床を貼り、部屋として使える大工作業を行っています。床の材は120年を経ている「松」だそうです！！



【世紀を超える木材】 仲間とともに村のキャンプ場のログハウスをリフォームしている。床を張り、囲炉裏を作る。

床には、キャンプ場のオーナーが、生まれ育った家の材を大切に保管していたものを使わせていただいた。

オーナーが生まれた時、お嫁さんが家に来た時、仕事から帰ってホッとした時…人生を刻んだ板が、今こうしてまた蘇ることを、彼はどう思っているのだろうか。 私たちは、オーナーが苦楽を共にした床の上で、新しい歴史の1ページを刻ませていただく。木って凄いな。(担当理事 加藤翔)

## 『INCH の楽しい仲間たち』 vol.7 その 11

## 『冒険探検粉塵記 第 11 話 雑穀街道を FAO 世界農業遺産に～ポンチャン最後の冒険』

駄作者 文福洞先斗

なぜか、コリアの鉄道駅の待合室にいた。観光旅行会社のツアーに参加していたようだ。この終着駅でいよいよ旅の終わりになり、国際空港駅までの列車に乗ることになったようだ。ところが、みな切符を持っているのに、ポンチャンだけ切符がなく、自分で買えと朝鮮語で言われているようだ。財布にウォンはほとんどなく、高額貨幣と引き換えられるような書類があるだけだ。もたもたしているうちに、もう切符は売り切れたので、お前は列車に乗れないぞ、と言われた。ここで、二度寝の目が覚めた。

このところ、ポンチャンも、もういい歳の大人になったので、冒険活動はそろそろ若者たちに引き継いだつもりだ。気楽な観光旅行をすることにして、観光旅行会社のツアーに参加している。添乗員さんの後をついているだけなので、緊張感もなく、緊急な状況への危機対応をしなくなった。だから、わけもわからず、こんな怖ろしい夢を見たのだろうか。夢見が悪いのは、いまだに冒険心が消えやらずにくすぶり続けているからだろう。そこで、『ファイマンさん最後の冒険』に習って、ポンチャン最後の冒険は「雑穀街道」を FAO 世界農業遺産にすることに決めた。人生はいまわの際まで挑戦と冒険だ。多様な雑穀も、冒険探検も「絶滅危惧種」にはいけないよ。

FAO 世界農業遺産とは、伝統的な農業と、農業によって育まれ、維持されてきた、土地利用（農地やため池・水利施設などの灌漑）、技術、文化風習、風景、そしてそれを取り巻く生物多様性の保全を目的に、世界的に重要で、持続可能な農業の実践地域を FAO（国連食糧農業機関）が認定するものである。FAO も大いに反省したのか、大規模農業の称揚のみから、小規模家族農耕の重要性を強調するようになった。日本ではほとんど無視されてしまったが、2014 年は国際家族農業年であったようだ。FAO 世界農業遺産は、第一に、先祖の生業の歴史、暮らしの基層にある伝統的知識や技能を受け継ぐ責任と誇りである。観光客が増えるとか、助成金がもらいやすくなるとか、これらお零れは二の次のことである。学術的な内容保証が求められてもいるが、現実には行政主導でその担保がなくてはならない。

自然文化誌研究会が山梨県上野原町西原での、「雑穀のむら～雑穀の栽培と調理」の調査研究（1974）から始まったことはすでに書いた。これらの成果に基づいて、雑穀を栽培する生物文化多様性が日本でもっとも豊かに保たれてきた地域、多摩川水系の丹波山村、小菅村から相模川水系の上野原市、相模原市緑区までをつなぐ道を、雑穀街道と勝手に呼ぶことにした。この雑穀街道に沿って、今も雑穀など作物在来品種を多様に栽培している山里が多くある。山女魚養殖を初めて成功させた小菅村橋立、穀菜食による健康長寿で世界に知られた上野原市柵原、トランジション・タウンで知られた相模原市藤野などが続き、FAO 世界農業遺産に認定を受けるにはふさわしい地域と言える。

環境は現在目に見える空間だけで構成されているのではなく、過去から未来へと続く時間と空間から構成されているのだ。目に見えずとも、歴史事実と未来想像は現在環境の枠組みを構成している重要な要素だ。サバンナ農耕文化の雑穀や根菜農耕文化のイモ、これに新大陸農耕文化を含めて、トウモロコシ、マメや野菜類も、ほとんどが世界各地から海を渡って日本列島に伝来した栽培植物だ。絶滅危惧の雑穀在来種を継承、普及する活動をしてきたが、麦類にしても多くが輸入され、あまり栽培されなくなってしまった。初夏に黄金色に熟す麦類は冬雨・夏乾燥の地中海農耕文化の主要な穀物で、日本に伝播しても冬生一年草の性質は変わらないので、麦秋は梅雨入り頃の季語だ。しかし、現在、麦類の栽培は減少し、このために死語寸前の麦秋を伝統的な知識や技能により再現することにした。栽培植物の在来品種種子を保全するためには、栽培・加工・調理・食作法を共に継承せねばならない。また、伝統を継承するためには新たな手法も加えて、再創作が必要でもある。

佐藤雅彦さんが、学大探検部 40 周年記念セミナーの時に、これらの活動は「報われることのない仕事、評価もされないし、もちろん見返りはない」とおっしゃっていた。自然文化誌研究会（学大探検

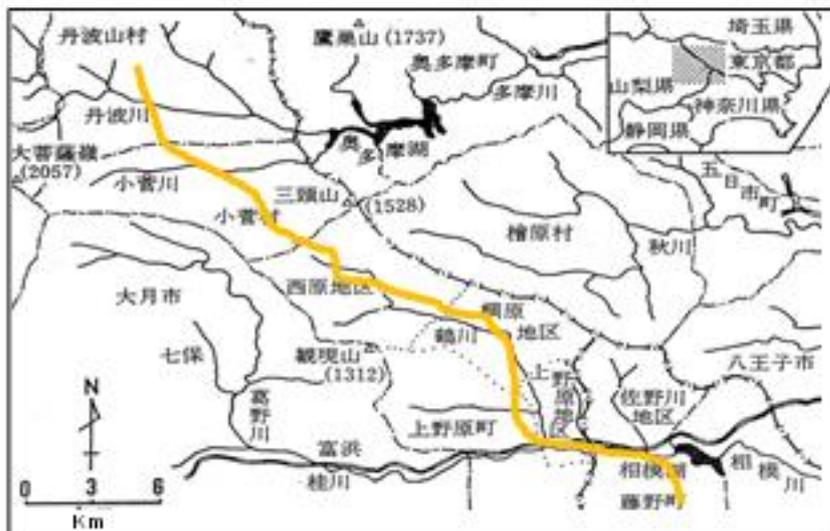
部) の任意活動はもとより名利を求めてはいないので、世間が名利で動いているからには評価や見返りが無いのはあたりまえだ。

さて、志しかない冒険探検者が、何の見返りも提供できないのに、名利の権化である行政府から賛同をどのようにとりつけるか、これは容易なことではない。したがって、雑穀街道を FAO 世界農業遺産にすることは、自然や農山村がフィールドであるだけではなく、都市の人々、とりわけ地域(山梨県、神奈川県、上野原市、相模原市、小菅村、丹波山村)から中央(農林水産省)および国際(FAO 国連食糧農業機関)の行政府に納得を頂くために、かなり複雑で、険しい困難を伴う冒険探検ということになる。さらに、この冒険探検は今までの学術調査や冒険学校と違って、あまり経験したことのない方法で、時空間を超えて何千・何万人の賛同者とともに活動することになる。どうぞ、皆様も賛同してくださり、一緒に冒険してくださいね。詳細は下記の「雑穀街道ホームページ」で、お知らせしていきます。

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

\* 学大探検部(愛称)は本来の正式名称を「東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部」といった。自然文化誌研究会と冒険探検部が合同したからである。現在は、NPO 法人自然文化誌研究会、東京学芸大学冒険探検部および同 OB 会、東京学芸大学ちえのわなどの関連団体が連携しながら活動している。2017-5-20

### 雑穀街道をFAO世界農業遺産に



### 現在日本の農耕文化の歴史的多層構造

連続的に、混合的な生物文化多様性への蓄積と衰退  
複雑/単純、虚無・便利の超克(The nothing / The convenience)



2017.3.25

## ○ 今後の活動予定のお知らせ(2017 年夏)

- 6/24-25 『小菅村 えんげきの日』 @小菅村 詳細は同封のチラシをご参照ください！！  
 7/28-30 のびと講座『源流での登山道整備』 @甲武信ヶ岳・甲武信小屋 2泊3日  
 8/2-8 冒険学校『こすげ冒険学校』 @小菅村 6泊7日  
 8/11-13 冒険学校『やまめキャンプ』 『いわなキャンプ』 @小菅村 1泊2日 or 2泊3日  
 8/12-21 のびと講座『タイ環境学習キャンプ』 @タイ 9泊10日  
 9/23-24 『INCHまつり』～INCHライブときのご探り @小菅村 日帰りでも1泊でも

※毎月2週のパースでログハウスづくり(トイレ棟づくり)も開催しています。興味ある方は事務局まで！！  
 ※6～7月中に、小菅村中央公民館で展開してきた「植物と人々の博物館」の移転作業(小菅村内)を行います。  
 移転先もようやく決定しました！！お手伝いできる方、お待ちしておりますよ～♪

## ○ 事務局より

●この春は「伝統知シンポジウム」もあり、あっという間にGWを迎えました。雑穀の種まきも終え、夏までの間一段落と思いきや、伝統知の報告書の作成と、植物と人々の博物館の移転作業があり、ハードな年のもよう クロ

## ○ 事務局の麗しき日々

- ・北ショーとアンディーがGWに結婚しました、オメデトウ！！
- ・ハズムは静岡県に移動するもよう。
- ・なんと！！大きい千亜紀ちゃんも夏に結婚するんですって！！
- ・冒険探検部の部員は2名でしたが、廃墟部？メンバーが加わったとのこと。
- ・翔くんの告白「僕ね、土地交渉を開始したんだよ！！」(続)
- ・ログビルダーもLINEで情報共有するようになったもよう。希望者は要連絡！

## ○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH(インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30年以上にわたって活動を続けています。2004年からNPOとして再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座(のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下8つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額(1～12月)です。また、皆様からのご寄付も募っております。

- 正会員:10,000円 一般会員:5,000円  
 学生会員:3,000円 賛助会員(個人・団体):10,000円  
 家族会員:6,000円 特別維持会員:100,000円  
 植物と人々の博物館友の会会員:3,000円  
 小菅村特別会員:1口1,000円から  
 成合基金(冒険探検基金):「成合基金」と記載してください。  
 郵便振替口座 : 00100-2-665768  
 口座名 : 特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 128号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌  
 <発行日>2017年5月30日  
 <編集>自然文化誌研究会 事務局  
 <発行>特定非営利活動法人

**自然文化誌研究会**  
 The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2  
 TEL : 0428-87-0165・090-3334-5328(事務局黒澤)  
 E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp  
 H P : <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>  
 事務局ブログ: <http://npoinch.naturum.ne.jp/>

次回「ナマステ 129号」は9月中旬の発行を予定しています。お楽しみに！！